

# 令和元年度第1回宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

○日時 令和元年 7月4日(木) 9:30~11:00

○会場 宇都宮市冒険活動センター 会議室

○出席者氏名

- |                                  |                             |
|----------------------------------|-----------------------------|
| ・狐塚 章一委員 (市小学校長会) <副会長>          | ・黒後 洋委員 (宇都宮大学) <会長>        |
| ・菊地 明夫委員 (市中学校長会)                | ・平野 勝委員 (篠井地区ゆたかなまちづくり協議会)  |
| ・池田 誠委員 (市PTA連合会)                | ・村田 靖委員 (県林業センター)           |
| ・五十嵐市郎委員 (市子ども会連合会)              | ・坂内 剛至委員 (有限株式会社ネイチャープラネット) |
| ・櫻井 政義委員 (市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会) | ・佐藤奈美子委員 (公募)               |
| ・池田 幸枝委員 (市レクリエーション協会)           | ・宇賀神光夫委員 (公募)               |
| ・月橋 春美委員 (県キャンプ協会)               |                             |

(事務局) 稲澤 正明所長, 村山 弘樹副所長, 矢野 学指導主事, 平山 絵夢指導主事

○公開 (傍聴者の数 0人)

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 委員紹介 役員の選出
- 4 議 題

## (1) 報告事項

平成30年度事業報告について

ア学校受入事業

事務局 : (資料に沿って説明)

会 長 : ご意見, ご質問はあるか。

平野委員 : 指導者研修の件について, 初任者研修の選択研修からなくなったということだが, もどすことはできないのか。

事務局 : 現状として, 初任者研修の数が増えてきている。教育センターで精査し, 外れてしまった。そのため, できるだけ参加しやすい内容を提供したり, 声掛けをしたりして参加者を増やしていけたらと思っている。特に, 新規採用1年目から3年目の先生方は, 今後, 冒険活動教室の引率としてくることがあるので, 将来に生きる体験や学級経営に生かせる内容にしたいと思っている。

五十嵐委員 : ナイトプログラムに力を入れ, キャンプファイヤー・キャンドルファイヤーをやっていると思うのだが, 先生方が指導できるのかということには疑問がある。小学校の若い先生の中には, ラジオ体操第二もできない人がいるという現状があり, キャンプファイヤーなどの経験も少ないだろう。私も, 立場上, 地域の子供たちとのキャンプファイヤーで『スタンツ』をやっただけ。と言うことがある。けれど, 子供たちは『スタンツ』って何ですか。という状況であった。また, 1番驚いたのは, キャンプファイヤーの中でテーブルマジックをやった子がいて, 誰も見えないだろうというような内容だった。私は, 「学校でやってきたでしょ。」と聞いた時の, 「やった。」という言葉に信頼している。だから, 先生方には難しい部分もあり, 時間的にも難しい部分もあると思うが, ナイトプログラムを推進しているのであれば, 研修の中身に関して, もう少し子供たちが楽しめたり, 先生方がしっかりと指導できたりというようなことをやってもらいたい。中学校は子供主体でもある程度融通がきくと思うが, 小学校は指導する先生と子供たちにとって, 「楽しかった。もっとこうしてみたい。」と思えるようなナイトプログラムとなるよう, 研修の中身の拡充や深化をお願いしたい。

事務局 : ナイトプログラムについて分からない先生が多いので, デモンストレーションで実際の動きを見せてきた。その成果もあり, 「おもしろい」「やってみよう」と取り入れる学校が増えてきているところである。それ以上の充実をもたせるために, 今後は先生方にも活動を考えてもらい, こちらが提示したものをまねるだけでなく, 内容が充実するような演習を行うという進め方をしている。これが広まっていけば, もっと充実した活動になっていくと思う。

副会長 : まちかどの学校について, 参加状況, 活動内容, 子供たちへの効果や変容を教えて欲しい。

事務局 : 今年度は2回行うが, 2回来る子供たちが同じかどうかは課題となっている。1回目は

簡単に参加できる杉板焼き、2回目は、これからつめるが、昨年度までにイニシアティブゲームや野外炊飯に取り組んだ実績がある。子どもたちの様子によって内容は変わっていくので、いろいろな活動を提供できるようにしていく。

事務局（所長）： 補足をすると、2回実施ということなので、1回目の杉板焼きに関しては、まずは自分一人で何かできる、2回目に関しては、仲間同士で関わって何かできるという発展性をもたせてやりたいと思っている。子供たちの実態があるので、普段接しているまちかどの先生と十分協議をつめた上で内容の計画を立てたいと思っている。

会長： 垂直降下について、具体的にどのくらいの高さなのか。

事務局： 三段階設けている。9m、6m、4mくらいの高さである。登る方は一番高く15mくらいである。

会長： 足場から壁を降りる感じなのか。何もないところなのか。

事務局： 吊り橋なので、吊り橋の上からロープ1本で行うもの。それだけ聞くと危険でないかと思うところだが、器具を用いバックアップをとって行う。その器具はある程度スピードが出ると止まるシステムなので、万が一の時にも対応できるようにしている。

五十嵐委員： 小学校のジップラインもおもしろそうだが、他のところのジップラインは上も下も体重制限がある。小学生は小さい子も多いので、できない子が出ないように工夫してほしい。

事務局： 体重の軽い子への対応は、命綱をつけるハーネスで小さい子用のものを購入してできるようにする。ただし、体重が重い子への対応は、ある程度制限はかかってしまう。だが、フルハーネスを使用したり、大きいハーネスを利用したりして、全員ができるよう工夫して取り組んでいく。

#### イ 主催事業

事務局： （資料に沿って説明）

会長： ご意見、ご質問はあるか。

坂内委員： 子どものもりフェスティバルは1400名の来場があったということだが、駐車場は大丈夫だったのか。また、来場者の滞在時間がどれくらいなのかを教えて欲しい。

事務局： 駐車場は、船生街道沿いの第一駐車場に線を足して100台くらい置けるようにした。第二駐車場にも20～30台置けるようにした。あとは、駐車場からセンターハウスに向かう坂のところにラインを引いて確保した。園外では、うどん屋「榛名」の駐車場や対面にある工場の駐車場も使わせてもらいながら、なんとか確保した。確保台数としては300台程度になっていた。来場者の滞在時間は、朝から来て長時間滞在するという方が多い。従って、駐車場はほぼ満車になってしまった。今後、ターゲット層を広げていくには、駐車場の確保が課題と考えている。

会長： 「駐車場に限りがあるのでできるだけ乗り合いでお願いします」のような内容の事前アナウンスはあるのか。

事務局： そのような内容の提示はしていない。対応としては、駐車場に職員が立って、誘導する形をとっている。立地条件上、車でないとなかなか来られない方が多い。混雑が予想されるので「乗り合いで来てください」という提示をしていくことは、今後必要になってくる。

#### ウ 一般受け入れ事業

事務局： （資料に沿って説明）

会長： 昨年全体の利用状況だと、全て主催事業でまともになっているが、増減の800というのは、フェスティバル参加者のプラスがメインなのか。また、一部市の教育委員会の事業が入ったといていたが、その人数はここには含まれていないのか。

事務局： 教育委員会の事業は一般利用の人数に含まれている。「イングリッシュキャンプ」という小・中学生を対象に1泊2日で行う事業である。通常だと何百人と泊まれるところを参加者50名程度で貸し切って行った。しかし、市の事業と一般利用を併用する場合もある。スポーツ少年団のリーダー研修、社会教育主事研修など使わない場所をうまくかぶせてやっている。一般利用者が入ることで厳しくなる事業がある際には、一線を引いて行うときもある。

事務局（所長）： 市の直営の施設なので、教育委員会以外でも市が企画・運営をしている主催事業もある。また、県が行うものもある。その際には、内容や公益性を考えて、一般の方たちとは違う形での利用・予約を受けている。

会長： あまり多いと一般の方から「特別扱いなのか。」といった声が出てくることがある。最近多い事例である。

## (2) 協議事項

### ① 令和元年度事業計画について（ア 学校受入事業，イ 主催事業，ウ一般受入事業）

事務局：（資料にそって説明）

会長：ご意見，ご質問等はないか。

月橋委員：学校受け入れ事業の実施前に指導者研修会や，保護者説明会，出前授業をされている。実施後に，次につながるという部分において，冒険活動教室の振り返りや次年度に生かすための課題を，学校と冒険活動センターで話す会をもっているのか。

事務局：先生方へ事後アンケートをとって反映させたり，先生方の満足度をまとめたりしている。ただ，年度の終わりに，来年度に向けてどういうところを改善するというところまで話をするのは出来ていない。今後の参考にしたい。

月橋委員：アンケートはもちろん参考になるが，ちょっとした会があるだけでも，その場で聞くことができると思っている。

会長：宇都宮大学に野外活動の専門の先生がいた頃に盛んに研究されていた。アンケートの取り方も活動が終わった後は当然満足度も高く，色々な数値が高いが，1年後2年後になるとクエスチョンがつく感じである。冒険活動でもキャンプでも野外でも，キーワードは色々あるが，将来自分のライフスタイルにちょっと位置付けてくれるためのきっかけとして考えられるが，将来に野外を取り入れるというのは，なかなか難しい。事後のアンケートはしっかりとしたデータをお持ちなので，色々な方の意見をうかがいながら，事前と事後を進めていただければと思っている。

### ② 「安全」についての協議・意見交換

事務局：（資料に沿って説明）

会長：ご意見，ご質問等はないか。

宇賀神委員：登山をしていて感じるものが，落石の心配である。最低限，頭を守るための帽子をかぶることを先生方に周知して欲しい。

事務局：全員帽子をかぶって登山することとしている。また，危険箇所があった際には，呼びかけや表示をするなどして対応している。

### ③ 「その他」についての協議・意見交換

事務局：（資料に沿って説明）

会長：ご意見，ご質問等はないか。

会長：職員人材の確保は毎年難しい。

坂内委員：人材確保は民間も頭をかかえているところである。職員として，社会人，学生，男女のバランスが必要になる。現在の嘱託員の社会人と学生の割合と男女の比率を教えてください。

事務局：嘱託職員という形での専門指導員は，募集10名のところ籍9名で，そのうち女性は2名。年齢層は20代前半で，大学を卒業して1～3年というところである。臨時職員のアドベンチャーリーダーは，現在，16名在籍していて，20代の学生が6名いる。ただし，学生については，授業等で月に1～2回，週末しか来られない現状がある。それ以外の年齢層では，50代後半と60代が10名いるのが現状である。男女の割合は，女性が少なく6名。男性が10名という現状である。

会長：学生の中には，基本的には教員になりたいというのが念頭にあり，実際は，冒険活動センターに来たいと思っている学生もいる。だが，こちらに1年間勤めて，これだけよい教育活動に携わっても，臨時的任用教員としては認められない。採用試験の合格率が7割を超えないので，臨時的任用職員として現場に出る学生もいる。しかし，ここでこれだけの小・中学生が集まる教育に携わるというのも教員としての幅が広がる。インターンシップも含めて，短期的，あるいは2～3年で，私のできる範囲で学生に呼びかけていきたいと思っている。

事務局（所長）：冒険活動センターの強みは，活動によるが，グループに一人ついて手厚い指導，支援を行えるところにある。そして，貸館業という形ではなく，指導，支援のところまで関わらせていただいているところだと思っている。宇都宮大学でも，苦しい事情でありながら，黒後先生を中心に，学生を派遣していただいて，なんとか今の状態である。若者が減って，苦しい状況である。これまでは，非常勤嘱託員，主に活動の中心を担っている職員については，教員免許状を持っているか，または，1年以上野外教育に関わる指導経験があるかということで募集をしている。しかし，教員免許状を持っている学生は，指導助手に流れる傾向がある。それが良い悪いではなく，若者の確保が厳しくなっている要因の一つになっているのだと思う。指導助手は，子供たち，教育にとってとても大切な存在である。だから，人材確保については，冒険活動センターなりの方策を見つけないといけないと思っ

ている。そこで、学校とかぶらないところはどこかと考えたときに、新潟にアウトドアの専門学校がある。珍しい専門学校名で、そういった興味関心をもった方たちが全国から集まっている。新潟にあるが、学生の出身地はそれぞれなので、冒険活動センターに興味を持ってもらえる可能性が全くゼロなわけではない。だが、冒険活動センターを強く推せない要因としては、永久就職はできないということが挙げられる。任用が非常勤嘱託員となるので、民間で社員として迎えるところと比べると弱い。ただ、最初に申し上げたように、うちの一番の強みは、貸館業だけではなく、スタッフによる指導や支援をやらせていただいているところである。だから、指導や支援にあたる人材を何としても確保していきたいと思って、様々な手立てを考えているので、皆様のつてだったり、何か良い案があったりしましたら、教えていただきたい。

④ 運営協議会の持ち方について

事務局 : (資料にそって説明)

会長 : 規約上は2回と書いてあるのか。

事務局 : 2回とは書いていない。

会長 : 事務局としては、1回でも問題はないか。規約上は問題ないようだが、一応12月が今年度の2回目、これはもう決まっている。

事務局 : そこも調整できる。12月末に学校利用の日程が決まり、その後、主催事業をこちらで入れていく形なので、1月後半くらいになればよいと考える。

会長 : もしくは2月前後で2回目を行うことも考えられる。事務局が一番よい形でご提案いただいた方がよい。令和2年度の学校利用計画が上がってきて、一般利用を含めても、2月くらいが一番よいのではないか。資料が整って、全体の年度報告と次年度の年度計画と、そちらで2月にかかっても問題はないのではないか。その時に改めて、次年度の持ち方もご提案いただければ協議は可能かと思う。その辺はまたご意見いただくとして、次回提案は私と事務局でつめさせていただいて、預からせていただいてもよいか。

会長 : それでは、以上でこちらとして用意した報告協議事項を終了したが、その他として何かあるか。なければこれで会を閉じる。